観光地域づくり法人形成･確立計画

記入日：令和 7 年　7 月　14 日

１．観光地域づくり法人の組織

申請区分 ※該当するものを〇で囲むこと	広域連携ＤＭＯ･地域連携ＤＭＯ･地域ＤＭＯ	
観光地域づくり法人の名称	勝山市観光まちづくり株式会社	
マネジメント・マーケティング対象とする区域	区域を構成する地方公共団体名 福井県勝山市	
所在地	福井県勝山市	
設立時期	平成 28 年 6 月 17 日	
事業年度	４月１日から翌年３月 31 日までの１年間	
職員数	36 人【常勤 22 人（正職員 20 人・出向等 2 人）、非常勤 14 人】	
代表者（トップ人材：法人の取組について対外的に最終的に責任を負う者） ※必ず記入すること	（氏名） 宮塚　和彦 （出身組織名） 勝山商工会議所	福井県勝山市出身 勝山商工会議所の専務理事として、市内企業との連携、商工業を通した地域経済の活性化に尽力雨している。
データ分析に基づいたマーケティングに関する責任者（ＣＭＯ：チーフ・マーケティング・オフィサー ※必ず記入すること	（氏名） 今井　三偉「専従」	福井県勝山市出身 時事通信社、JAPAN サッカーカレッジ等で営業・運営・地域マネジメントなど多様な業務従事。マーケット・インに基づいた事業立案を担い、実行責任も負っている。
財務責任者（ＣＦＯ：チーフ・フィナンシャル・オフィサー） ※必ず記入すること	（氏名） 伊藤　寿康「専従」	福井県勝山市出身 勝山市役所にて政策幹、危機管理幹等を歴任。運営収支計画や金融機関との折衝等、行政との調整など財務、事務を取り仕切る。
プロモーションの責任者	（氏名） 今井　三偉「専従」	CMO が兼任。 データ分析にともなったプロモーションの計画立案等を実施している。

様式１

道の駅　恐竜渓谷かつやま責任者	（氏名） 木下　和寛「専従」	福井県勝山市出身 ホテルなどのリゾート施設で 18 年間の勤務にて主にホテルオペレーションや団体営業に携わり、令和 2 年より道の駅の駅長として地域の農家や事業者との連携を行いながら、地域の事業者の販路拡大や商品開発等の企画、販売を行なっている。
旅行商品造成・営業の責任者	（氏名） 南部　真佐美「専従」	福井県勝山市出身 2014 年に勝山市に就職し、2024 年に当社に転職。市内の観光施設、観光事業者と連携を行い、旅行商品の造成、営業を行なっている。
農業・青果市場部門の責任者	（氏名） 坪内　正也「専従」	福井県勝山市出身 海上保安官を経て、2022 年に当社に転職。自社で運営するかつやま青果市場の責任者として、農林水産者との連携を密に行っている。
連携する地方公共団体の担当部署名及び役割	福井県勝山市 商工文化課 （観光施策、インバウンド、商業振興、データ収集等の連携や観光地域づくりや商業振興、日本遺産、商品開発に関する政策連携） 農林課 （道の駅、農泊等体験型事業、6 次産業化等農業に関する政策連携） 建設課 （恐竜博物館周辺等に関する社会資本整備に関する連携）	
連携する事業者名及び役割	・勝山商工会議所（地域活性、商品の開発、市内商工業者との連携） ・合同会社ジオスタジオ（観光拠点施設の飲食店運営） ・株式会社六千坊（観光地「平泉寺」の周辺施設を運営） ・あまごの宿、勝山淡水漁業組合（地場商品のブランド化） ・交通事業者（事業連携、ツアー造成、二次交通のアクセス改善） 大福交通有限会社、勝山交通株式会社、オクエツ観光株式会社、えちぜん鉄道株式会社 ・宿泊施設、飲食事業者（事業連携、旅行商品造成等） 東急リゾーツ＆ステイ株式会社、株式会社リオ・ホテルズ関越等 ・農林事業者（道の駅、青果市場、宿泊施設等への野菜提供） ・中央日本総合観光機構（広域連携 DMO） ・福井県観光連盟（地域連携 DMO） 他、市内及び県内の観光・商工業者等	
官民･産業間･地域間との持続可能な連携を図るための合意形成の仕組み	【該当する登録要件】① 交通事業者、宿泊事業者など商工業者の代表者である商工会議所からの代表者をはじめ、行政、金融機関等が幅広く出資して設立し、参画している。株主総会により、戦略を共有し、取締役会において、意思決定を行う。 当社の資本構成と取締役会人員は下記の通りであり、地域内の官民・産業間との持続可能な連携を図る合意形成の場となっている。 【資本構成】	

資本金	1,000 万円
株主構成	・勝山商工会議所（53.5%） 商工会議所会員 50 団体（個人含む）が小口にて出資 ・勝山市（24%）

	・福井銀行（5%） ・越前信用金庫（5%） ・北陸銀行（2.5%） ・合同会社ジオスタジオ（10%）

【取締役会】2025 年 6 月末日時点

役職	氏名	出身元
代表取締役	宮塚　和彦	勝山商工会議所　専務理事
取締役	吉田　啓介	福井銀行
取締役	阿部　光郎	勝山商工会議所　副会頭
取締役	伊藤　寿康	勝山市観光まちづくり（株） 勝山市 OB
取締役	今井　三偉	勝山市観光まちづくり（株）
監査役	山内　嘉祐	越前信用金庫

また、取締役会や株主総会の他に、市内観光施設や観光事業者とより意見交換ができる協議会を設立し、意見の集約や事業の共有を行っている。

【勝山観光戦略協議会】

宿泊施設	ホテルハーヴェストスキージャム勝山 東急リゾーツ＆ステイ㈱
宿泊施設	勝山ニューホテル ㈱リオ・ホテルズ関越
宿泊施設	勝山市旅館業組合
飲食業	勝山市麺類業組合
飲食業	勝山菓子組合
飲食業	勝山喫茶飲食業組合
観光施設	かつやま恐竜の森 株式会社　恐竜の森
観光施設	越前大仏 臨済宗妙心寺派大師山清大寺
観光施設	勝山城博物館 （公財）多田清文化教育記念財団
観光施設	ゆめおーれ勝山 NPO 法人まちづくり勝山

様式１

	観光施設	スキージャム勝山 東急リゾーツ＆ステイ㈱
	観光施設	白山平泉寺観光振興拠点 ㈱六千坊
	交通	奥越バス協会 大福交通(有)
	交通	えちぜん鉄道㈱
	経済団体	勝山商工会議所
	経済団体	一般社団法人　KICKS
	行政	勝山市
地域住民に対する観光地域づくりに関する意識啓発・参画促進の取組	道の駅　恐竜渓谷かつやまや花月楼周辺でのイベントなどで観光意識の啓発を図るとともに、地域プレイヤー育成を目的として年２回程度、他地域で活動しているプレイヤーを招き講演会・ワークショップを行っている。 観光事業者や一般の事業者については、勝山商工会議所と連携し、お土産物開発講座を行い、意欲ある事業者と事業連携を行っている。また、体験プログラム等のコンテンツ造成や実施の際には観光事業者を含む一般の事業者とも随時連携し、情報、戦略を共有している。 	
法人のこれまでの活動実績	**【活動の概要】** 事業：情報発信・プロモーション 実施概要：・2018 年～　SNS 情報発信・分析事業 国内観光客（個人旅行客）に向けて、勝山市の情報のみならず、近隣市町（永平寺町、大野市、石川県白山市）の情報を instagram 及び Facebook を用いて情報発信を行っている。 2021 年には福井県観光連盟と共に Instagram や Google My Business（Google ビジネスプロフィール）を用いたマーケティング調査を行った。2022 年には福井県観光連	

		盟の事業にて自社のデジタル人材の育成を行い、以後も継続して、デジタルマーケティングを実施している。 ・2020 年～インバウンド向け情報発信事業 勝山市並びに近隣市町（永平寺町、大野市）とともにインバウンド向けウェブサイトを開設した。2020 年に英語、2021 年に繁体字、2022 年には簡体字およびフランス語を追加した。また、JNTO と連携し、JNTO 観光コンテンツ多言語ウェブサイトに掲載を行った。 ・2021 年　インフルエンサー招聘事業 台湾向けインフルエンサーを招聘し、ウェブ掲載、インスタグラムのライブ機能を用いた PR 事業を実施した。 ・越前大仏　広報事業 2022 年より越前大仏清大寺の広報を当社にて請け負っている。来場者数も毎年、前年度比で上昇しており、昨年度は外国人上昇率 2 位に春・夏となった。引き続き広報を行なっている。 ・各種データ取得・分析 地域連携 DMO である福井県観光連盟が実施しているオープンデータ「FTAS」、広域 DMO である中央日本総合観光機構の支援事業にて分析ダッシュボード、自社で実施しているアンケート調査等を集約し、データ分析等を行っている。 ・インバウンド向け情報発信サイトの活用 2022 年よりインバウンド向け情報発信サイト「MATCHA」を活用して、多言語での情報発信をおこなっている。 ・2021 年～ 市内観光地や観光名所の Google My Business や Tripadvisor を当社で一元管理を行っている。
	受入環境の整備	・2020 年訪日グローバルキャンペーン事業 外国人によるモニター調査を行い、地域の通訳案内士等を対象に地元英語ガイド講習会を行った。 ・2021 年北陸三県誘客促進連携協議会観光素材造成事業 当社で行っている左義長体験ツアーのコンテンツのパンフレットを日本語及び英語双方で作成した。 ・2021 年 Google マイビジネス／Trip advisor 市内観光事業者及び商工業者向けに Google マイビジネス及び Trip Advisor の講習会を実施し、開設及び運用支援を行なっている。

		・2023 年道の駅看板整備事業 　道の駅に来場するインバウンド客に向けて、英語の看板設置を行った。
	観光資源の磨き上げ	・2020 年～ インバウンド向けコンテンツの整備事業 　2020 年度観光庁「訪日グローバルキャンペーンに対応したコンテンツ造成事業」により、勝山市及び大野市で 6 つのコンテンツを造成。2021 年は福井県事業にて FAM トリップを実施した。2022 年はスノーアクティビティを地域事業者と連携し、構築を行った。 ・道の駅　恐竜渓谷かつやまの運営 　勝山市の玄関口に位置する道の駅の運営を 2020 年に勝山市の指定管理業務より開始した。勝山市内の特産品をはじめとして、域内、県内のお土産を取り揃えており、商品や陳列など改善を重ねている。 　2022 年からは地域農家の課題解決や農作物を用いて付加価値をつけた商品開発を行うなど、新商品開発及び EC 事業を展開、利益率の改善やオリジナル商品を通してブランディングを進めている。 ・青果市場の建設及び運営 　2024 年から高齢化で持続困難になった地域の青果市場を引き継ぎ、運営している。2025 年内に青果市場を建設し、地域の食材を楽しむことができるカフェを運営する。将来的には道の駅の事業と合わせて、地域商社機能を社内で強化し、農業への参入等見据えて地域資源を保全しつつ活動していく。 「かつやま青果市場」 ・「ジオターミナル」の運営 　2018 年より福井県立恐竜博物館の位置する「かつやま恐竜の森　長尾山総合公園」において、土産販売・飲食・観光案内等を提供する複合施設「ジオターミナル」を保有・運営している。 　市内や県内の事業者と連携した商品開発をはじめとして、恐竜に特化した商品を提供している。2020 年からは東京などの関東圏でも催事にて販売を開始し、市内の売上だけでなく、市外での販売網も構築している。 　また、恐竜という商品特性を活かして、EC 事業やオリジナル商品開発にも力を入れ、利益率の改善を重ね、売上も着実に向上している。

様式１

・「花月楼」の施設管理
明治 30 年建築で国の有形文化財である「旧料亭　花月楼」の全面改修を行い、施設を保有している。地域の郷土料理発信の地として市内飲食事業者にサブリースで提供している。団体旅行の受け入れや講演会、セミナー等の施設利用などとしての営業も行なっている。

・着地型ツアーの開発・実施事業
地域事業者と連携したツアーを造成、販売をしている。
【飲食施設】
市内の伝統的な祭り「勝山左義長」を体験できる食事ツアーをインバウンド、国内、団体向けに開発を行なっている。
【交通事業者】
2021 年より地元の交通事業者と連携し、恐竜博物館や道の駅を訪れている観光客に向けての 1 時間程度のショートツアーを実施している。
【繊維事業者】
繊維工場と連携して、向上見学ツアーを販売している。2025 年度は「地域観光魅力向上事業」を使い、縫製工場と連携して、体験型ツアーを開発、実証事業を行う。

・一棟貸の宿の開発・検討
1300 年以上の歴史を誇る「白山平泉寺」には多くの観光客が訪れているが、その反面、周辺エリアにキャッシュポイントが少なく、地域の住民が観光客を良く捉えられていない面がある。地域の担い手も高齢化し、空き家が目立っていく中で、当社として地域の若手事業者と連携し、古民家を購入し、宿泊施設等の開設を目指している。現在はエリアで活動する事業者と先進事例を見学する等、行っている。

・越前大仏　観光再始動事業
2023 年に観光庁の「観光再始動事業」にて越前大仏の雲海事業を実施し、継続して事業を行っている。市内のインバウンド上昇率を引き上げている要因の一つとなっている。

・E-Bike 事業
2023 年に観光庁の「インバウンドの地方誘客や消費拡大に向けた観光コンテンツ造成支援事業」の採択を受け、E-Bike を用いた観光施設の周遊を促す事業を実施した。現在はえちぜん鉄道　勝山駅にてレンタル E-Bike 等販売している。

様式１

【定量的な評価】

各店舗売上

	2020	2021	2022	2023	2024
ジオターミナル（千円）	95,754	91,297	152,438	197,091	300,248
道の駅（千円）	105,230	100,412	148,727	190,637	231,139
花月楼（千円）	1,636	1,636	1,636	1,636	1,636

・SNS データ
・観光入込客数
・ウェブサイトアクセス数等

実施体制
※地域の関係者との連携体制及び地域における合意形成の仕組みが分かる図表等を必ず記入すること（別添可）。

【実施体制の概要】

交通事業者、宿泊事業者等の代表者である勝山商工会議所、勝山市、金融機関等が出資し、設立された株式会社として、主要団体より役員が派遣されている。

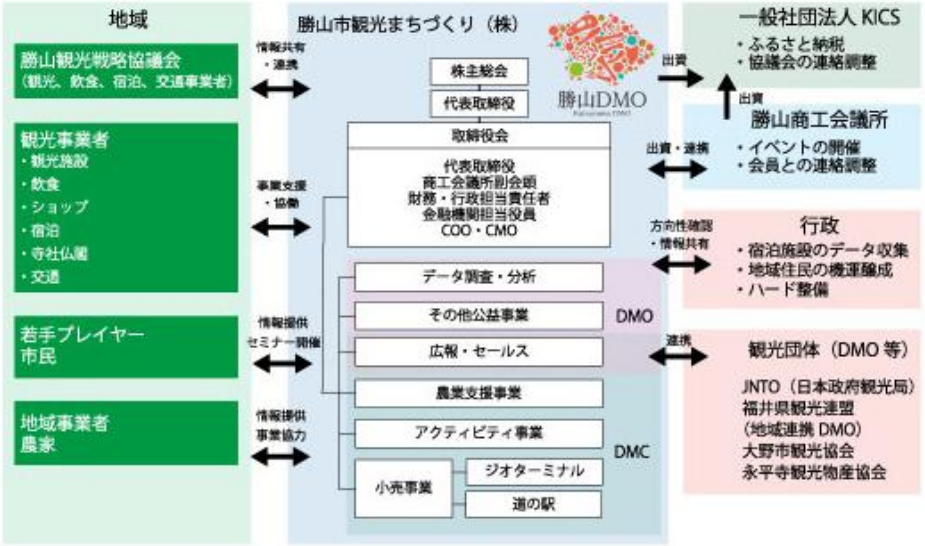
データ収集、マーケティング、ブランディング、プロモーションの戦略の策定を行う DMO 機能と土産店や道の駅等の小売部門、地域の事業者とのコンテンツ開発や商品開発、地域プレイヤーの育成等、営利目的での収益事業やまちづくり事業を行う DMC 機能を保有している。

事業の意思決定においては、４半期に一度開催する取締役会で方針を承認、決定し、実行を行なっている。

また、取締役会とは別に勝山市内の観光事業者との協議会を勝山 DMO 及び商工会議所、そして共同で設立した（一社）KICS が【勝山観光戦略協議会】を運営し、年３回、意見の集約と事業プロセスの説明や意見交換、機運醸成を行なっている。

行政は情報の共有や宿泊施設等のデータ収集、地域住民の機運醸成やハード面の整備等を行いながら、地域が一体となって合意形成を図り、事業を実施していく。

【実施体制図】



【勝山観光戦略協議会】

宿泊施設	ホテルハーヴェストスキージャム勝山 東急リゾーツ＆ステイ㈱
宿泊施設	勝山ニューホテル ㈱リオ・ホテルズ関越
宿泊施設	勝山市旅館業組合
飲食業	勝山市麺類業組合
飲食業	勝山菓子組合
飲食業	勝山喫茶飲食業組合
観光施設	かつやま恐竜の森 株式会社　恐竜の森
観光施設	越前大仏 臨済宗妙心寺派大師山清大寺
観光施設	勝山城博物館 （公財）多田清文化教育記念財団
観光施設	ゆめおーれ勝山 NPO 法人まちづくり勝山
観光施設	スキージャム勝山 東急リゾーツ＆ステイ㈱
観光施設	白山平泉寺観光振興拠点 ㈱六千坊
交通	奥越バス協会 大福交通(有)
交通	えちぜん鉄道㈱
経済団体	勝山商工会議所
経済団体	一般社団法人　KICKS
行政	勝山市

様式１

２．観光地域づくり法人がマネジメント・マーケティングする区域

【区域の範囲が分かる図表を挿入】

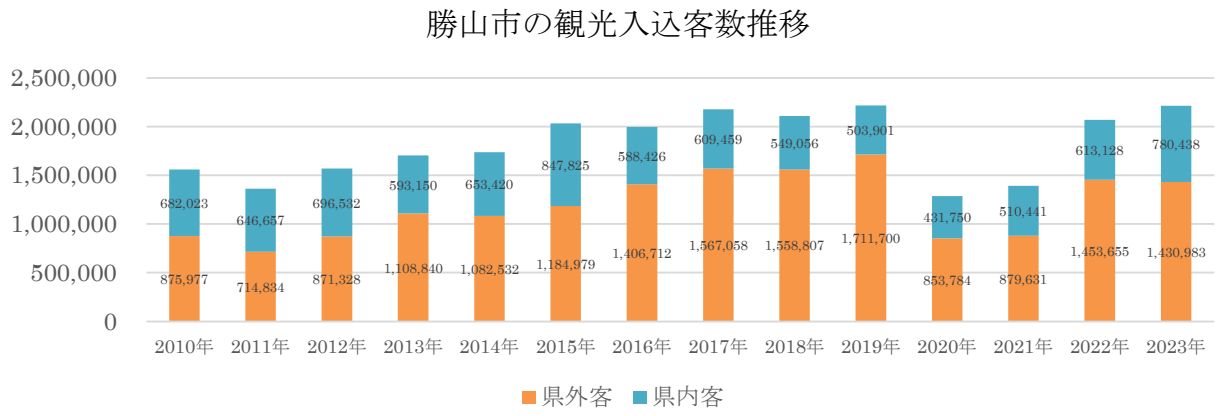
【区域設定の考え方】

勝山市は福井県北東部に位置し、大野市・永平寺町・福井市・坂井市に隣接し、白山山系の山々を介して石川県にも隣接している。

地域 DMO として基本的には勝山市を区域として設定しており、「道の駅　恐竜渓谷かつやま」を玄関口として捉え、「福井県立恐竜博物館」や「スキージャム勝山」「白山平泉寺」といった集客力のある観光地での調査や市内コンテンツを利用した着地型商品の開発、市内農産物等を利用した商品開発及び市内、近隣自治体の事業者との連携を行っている。

また、インバウンドなど観光を多面的に捉える機会もあり、大野市には「大野城・七間朝市」、永平寺町には「曹洞宗大本山永平寺」など福井県内でも有数な観光地が隣接しており、情報発信等事業は勝山市以外の市町とも連携を行っている。

【観光客の実態等】



出典：勝山市「勝山市のすがた」

観光地別入込状況調査

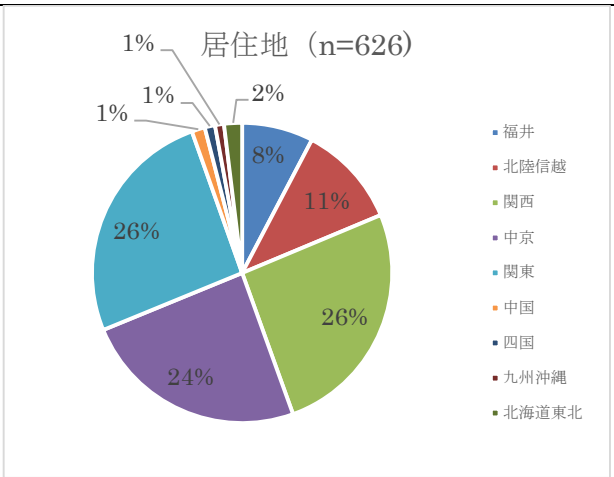
（単位：人）

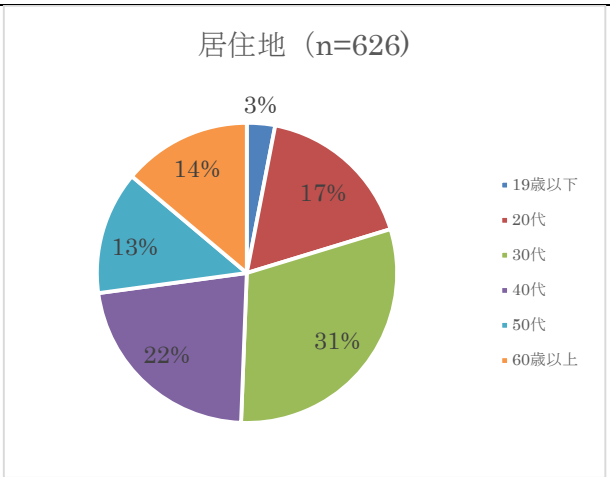
区分	平成 30 年	令和元年	令和 2 年	令和 3 年	令和 4 年	令和 5 年
平泉寺周辺	227, 674	215, 501	117, 007	95, 723	116, 381	141, 064
雁が原周辺	69, 347	67, 159	15, 052	32, 409	36, 714	40, 901
加越国境周辺	14, 983	16, 018	10, 571	18, 990	21, 728	20, 052
大仏・城周辺	112, 966	125, 208	107, 833	129, 283	157, 495	170, 709
スキージャム周辺	317, 458	290, 853	135, 914	196, 886	240, 785	272, 698
恐竜博物館	847, 369	939, 672	371, 610	385, 861	667, 950	666, 009
野外恐竜博物館	39, 307	42, 930	10, 405	11, 901	17, 617	14, 103
発掘体験	41, 520	48, 848	20, 783	23, 020	54, 589	39, 672
ディノパーク	199, 906	227, 837	127, 849	112, 824	249, 039	190, 689
ゆめおーれ勝山	76, 002	81, 537	48, 440	47, 480	52, 615	48, 915
かつやま左義長まつり	80, 000	120, 000	40, 000	－	－	80, 000
道の駅「恐竜渓谷かつやま」	－	－	246, 565	325, 487	441, 523	503, 660
その他	81, 331	40, 038	33, 505	10, 208	10, 347	22, 949
計	2, 107, 863	2, 215, 601	1, 285, 534	1, 390, 072	2, 066, 783	2, 211, 421

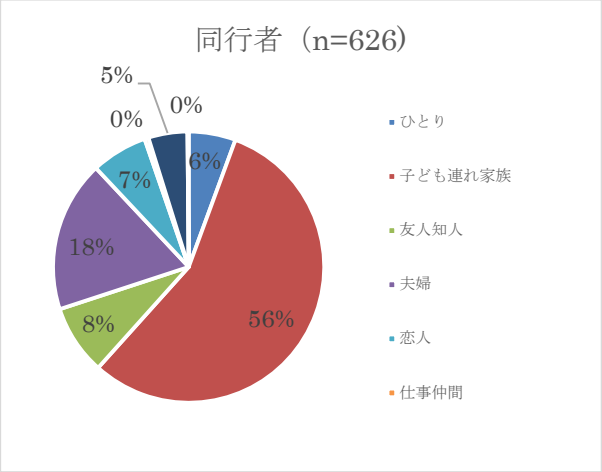
出典：勝山市「勝山市のすがた」

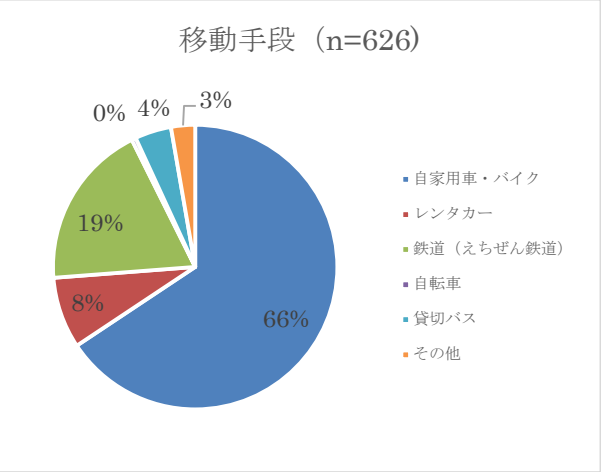
「恐竜博物館があるかつやま恐竜の森」および「道の駅　恐竜渓谷かつやま」でのアンケート調査では、小学生以下の子供がいる大阪・名古屋・東京等の大都市に居住する 20 代～40 代のファミリー層が主要観光客層となっている。

2023 年、恐竜博物館の増改築及び、2024 年北陸新幹線延伸等があり、勝山市を訪れる来場者のボリュームが増加し、県内の観光客が減少した。









※2024 年度自社アンケート調査データ

【観光資源：観光施設、商業施設、自然、文化、スポーツ、イベント等】

山間の自然に恵まれ、恐竜の時代から繁栄していた勝山市。白山信仰の本拠地でもあり、歴史的にも山との結びつきが強く、県内でも有数のさまざまなターゲットに沿った観光コンテンツがある。

◎恐竜化石（福井県立恐竜博物館）

日本屈指の化石産出地であり、世界三大恐竜博物館に数えられる福井県立恐竜博物館を擁し、多くの観光客が訪れている。2023 年には恐竜博物館が増築され、2026 年以降にも恐竜博物館がある公園内に 100 室規模のホテルがオープン予定である。

◎白山平泉寺

白山信仰の中心地として栄えた壮大な宗教都市の遺跡で、200 ヘクタールに及ぶ広大な史跡。日本一美しいといわれる苔宮として知られ、開山 1300 年以上の歴史を誇り、多くの観光客が訪れている。日本遺産にも登録され、現在では有料のガイドツアーや周辺の古民家をカフェにリノベーションを行うなど地元の事業者との取り組みも増加している。当社としても地元事業者と連携をして、2026 年度以降より１棟貸しの宿を検討している。今年は 33 年ぶりのご開帳があり、宝物館の限定公開等も弊社で実施した。

◎スキー等のアウトドアレジャー（スキージャム勝山）

スキージャム勝山は宿泊施設も併設されている西日本最大級のスキー場であり、冬季だけでなく、夏季も楽しむことができる施設である。ファミリー層向けというターゲットで特に夏時期には恐竜博物館との親和性もある。スキージャム勝山を運営している事業者とも連携し、プロダクト開発等を行っている。

◎国登録有形文化財「旧料亭　花月楼」周辺

明治 30 年建築。2 階の 32 畳の大広間は幅 2 間半の床の間を設け、天井は意匠的にも優れ、非常に珍しい傘状をしている。施設のリノベーションを行い、団体旅行および個人向けのレストランとしてオープンしている。花月楼周辺の通りに関しては昔ながらの雰囲気が残っており、近年ではゲストハウスや飲食店がオープンしている。今後も地域のプレイヤーとともに事業連携を行い、飲食店の誘致やコワーキングプレイス等の検討などまちの核となる事業を実施していく。

◎食材・郷土料理等

川魚（あゆ、あまご）、野菜（水菜、エゴマ）、勝ち山おろしそば、勝ち山ぼっかけ、地酒等。

現在、花月楼を郷土料理伝承の地として、地域の伝統食材を提供しているが、今後は、町全体として、地域の食材を使用したメニューの提供を行うなどワークショップを実施していきたいと考えている。
2023 年より新たな特産品の事業等を行い、地元の養殖事業者が生産した清流サーモンを「勝山　やまのサーモン」としてブランディングを行い、2024 年より市内外の飲食店へ販売事業を自社でスタートした。食の魅力づくりとして地元商材を地元で提供する取り組みを実施していく。

【宿泊施設：域内分布、施設数、収容力、施設規模等】

勝山市内の宿泊施設は、50 室以上の大型ホテルが 2 軒（計 203 室、最大収容定員 756 名）、5～30 室規模の中小ホテル・旅館が 15 軒（計 124 室、最大収容定員 438 名）あり、一定の受け入れ体制が整えられている。令和 5 年度には、恐竜博物館のリニューアルにあわせて 1 軒のホテルが 50 室を増設し、100 室規模へと拡張された。
近年では、一棟貸しの民泊施設も増加傾向にあり、コロナ禍では 1 軒だった施設数が、現在は 8 軒にまで増加している。
北陸新幹線の延伸や恐竜博物館のリニューアルにより、今後も新たな宿泊施設の建設・開業が毎年予定されています。宿泊のスタイルにも多様化が見られ、今年度も新たな民泊施設の開設が予定されている。
一方で、勝山市には観光客の約 7 割が宿泊を希望しているにもかかわらず、実際に市内に宿泊するのは全体の 11%にとどまっている。これは市内の宿泊キャパシティ不足が背景にあると考えられている。現在も 1 年を通して予約が取りづらい状況が続いているなかで需要は続いている。

【利便性：区域までの交通、域内交通】

観光客の主な交通手段は自家用車となっており、2017 年の中部縦貫自動車道・永平寺大野道路の開通によって、関西・中京エリアからのアクセスが飛躍的に向上した。2024 年 3 月には北陸新幹線 金沢－敦賀間の延伸があり、関東・甲信越方面から訪れる観光客の増加も見込むことができる。地域鉄道として、「えちぜん鉄道」が県都の福井市と勝山市間を結んでおり、北陸新幹線からの二次交通手段として機能している。福井市からの他の二次交通手段としては、福井市からのレンタカーになるが、現状として十分に確保できている状況ではない。県としても福井駅から恐竜博物館までの直通バスを繁忙期において提供していたが、運転手の人手不足によって 2024 年 6 月より運休が発表されている。
市内の交通手段においては、えちぜん鉄道勝山駅と福井県立恐竜博物館を結ぶ直通シャトルバス「恐竜博物館直通便」が 2017 年 4 月より運行しており、恐竜博物館への直通アクセスが向上してきていることに加え、コミュニティバスの運行で勝山市内各地へのアクセスも可能としているが、恐竜博物館以外への交通手段がバスの本数不足、観光地間を結ぶ交通手段が少なく、高齢化によるタクシーの夜間配送減少等課題が多数存在しており、対策が必要である。

【外国人観光客への対応】

国内観光客が増加し続けている勝山市において、外国人観光客の誘客については徐々にだが、機運が高まってきている。当社として 2020 年ごろよりグローバルキャンペーン等の事業にて勝山市を含む周辺地域のインバウンド向けのコンテンツ開発を行い、積極的に情報発信を行っている。また、チラシやツアー資料の英文化も行っている。北陸新幹線が延伸する流れの中で、金沢に滞在する観光客に向けてさらなるワンステップとして情報を提供していきたいと考えている。

また、観光庁の事業等の採択を受け、インバウンド向けのコンテンツを増やし、受け入れ体制の強化を目指している。

インバウンド誘客における情報発信を強化するべく、2021 年から 2025 年まで「MATCHA」を導入し、地域観光情報の発信を強化した。現在は SNS を中心としたプロモーションを行なっている。

増加するインバウンド観光客のニーズに対応出るように 2024 年からは勝山インバウンドラボを開催し、観光事業者と外国人観光客の対応等を協議している。

３．各種データ等の継続的な収集・分析

収集するデータ	収集の目的	収集方法
観光入込客数	経済活性化状況の把握のため	市役所が収集したデータを分析
延べ宿泊者数	経済活性化状況の把握のため	市役所が収集したデータを分析
旅行消費額	経済活性化状況の把握のため	市役所が収集したデータを分析
来訪者満足度	満足度と不満な点をヒアリングするため	自社で行っているヒアリングアンケートにより集計、分析
顧客属性（居住地、性別、人数等）	正しい顧客属性を把握し、適切にマーケティングを行うため	自社で行っているヒアリングアンケートにより集計、分析
観光 WEB サイトや SNS のアクセス状況及びインサイト	満足度や PR 事業を行う際のベンチマークとしての指標を把握するため	自社の運営する各種 Web サイトのアクセス数を取得
観光案内所での問い合わせ内容	観光客ニーズの把握のため	観光案内所での相談受付
道の駅での入込客数と購買人数	道の駅での購買率を調査し、収益性を改善するため	POS レジにて把握
恐竜博物館前のショップでの購買人数	収益性を改善するため	POS レジにて把握
外国人の宿泊者数	国別来訪者の把握	宿泊施設へのヒアリング

４．戦略

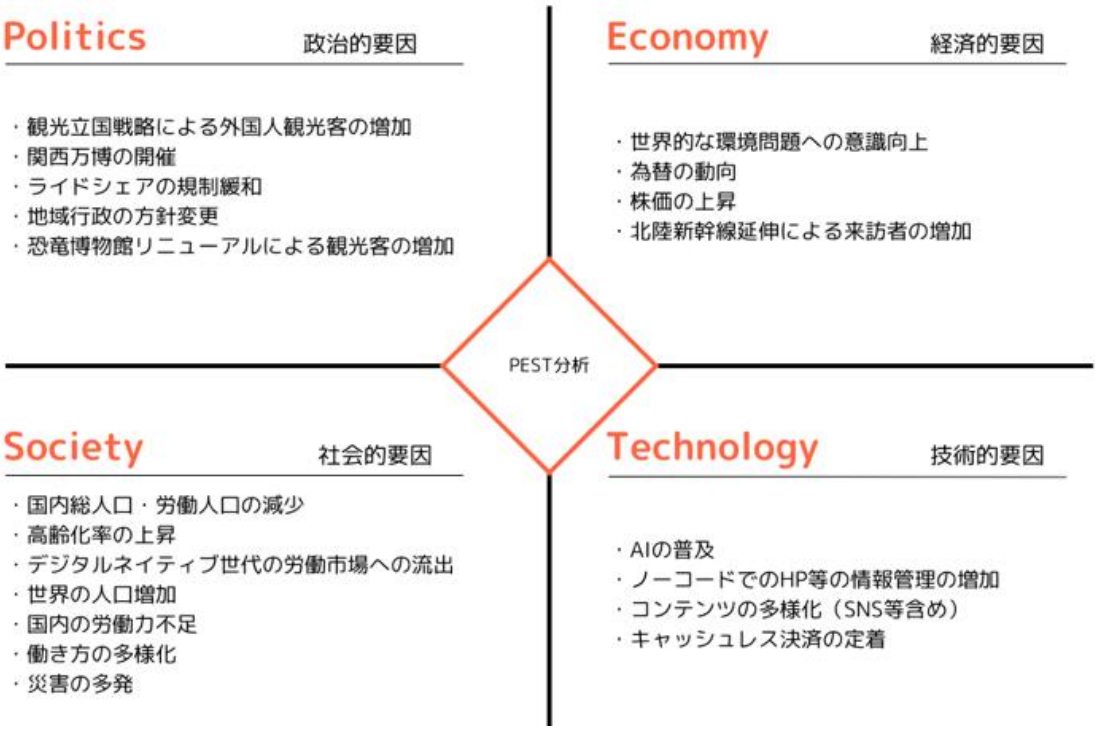
（１）地域における観光を取り巻く背景

勝山市では少子高齢化、人口減少が進んでおり、20,000 人台まで推移している。基幹産業であった繊維産業においても事業所が減少傾向にあり、農林水産業においては高齢化率が顕著に進んでいる。
こうした地域の課題に対して、観光を産業化し、市内事業者の新規参入の増加及び収益化を目指していく。地域資源を活かした観光商品やお土産の開発、既存の施設を連携しながらの誘客、農業事業者等と連携し、魅力的な地域づくりに取り組むという観光を通して複合的に各産業を巻き込むことによって、新たな雇用の創出や担い手不足の解消等につなげていく。
また、周辺市町と連携を行い、行政の枠だけでは限界がある観光客を面で捉えていくことを目標としている。

（２）地域の強みと弱み

	好影響	悪影響
内部環境	**強み（Strengths）** ・恐竜化石発掘量日本一 ・世界三大恐竜博物館にも選ばれて、恐竜好きの中でもメッカとなっている福井県立恐竜博物館 ・ウィンターシーズンだけでなく、グリーンシーズンも楽しむことができる西日本最大級のスキー場スキージャム勝山 ・山岳信仰の神秘性あふれ、1300 年の歴史を誇る白山信仰の中心地として栄えた白山平泉寺 ・日本で一番大きい大仏　越前大仏 ・周辺の市町と比較して、目的地となる施設が多い。	**弱み（Weaknesses）** ・多くの観光客が訪れるが、夏季の飲食施設や宿泊施設の収容力が不足している。 ・地元特産品および市内の加工事業者が少なく、不足している。 ・提供する食のバラエティが少ない。 ・観光地を結ぶ市内周遊のインフラが非常に弱く、恐竜博物館からの市内周遊が非常に難しい。 ・アクティビティ系の事業者の少なさ ・行政の観光に対しての取り組みの少なさ ・観光の専門人材の不足 ・人手不足
外部環境	**機会（Opportunity）** ・北陸新幹線の敦賀延伸 ・金沢からの日帰り需要 ・アウトドア需要の拡大 ・中部縦貫自動車道延伸 ・周辺地との連携可能性 ・映画等による恐竜需要の定期的な喚起	**脅威（Threat）** ・観光に携わる担い手の不足 ・渋滞などの観光公害の発生 ・若者のスノースポーツ離れ ・豪雪のマイナスイメージ

様式１



（３）ターゲット

○第１ターゲット層 中京・関西・関東の大都市に居住する２０～４０代の子供がいるファミリー
○選定の理由 　恐竜博物館やスキージャム勝山など市内の集客力がある観光施設の主要観光客層であり、データ結果からも見ることができる。北陸新幹線の延伸や恐竜博物館の増設等により関東圏からの同属性の誘客が見込むことができ、今後も増加することを予想しているため。 ○取組方針 上記ターゲットの根本的なニーズは「子どもの喜ぶ顔を見たい。子どもとの楽しい思い出を作りたい」ということであり、恐竜博物館に多くの観光客が来ている理由も子どもを喜ばせたいという親心によるものである。地域資源を活用し、家族で一緒に楽しむことができるアクティビティやニーズ合わせた一棟貸し等を提供することや、ターゲットにあった商品構成を考え提供することが、滞在時間の長期化や観光消費額の増加を図ることができると考えている。
○ターゲット層 寺社、仏閣などに興味がある個人旅行で訪れるアクティブ層
○選定の理由 　白山平泉寺や越前大仏など寺社仏閣等に訪れている人数が増加しており、今後も増加を見込むことができ、かつ、集客する駐車場等も既に完備されているため。 ○取組方針 　個別の SNS プロモーションを行なっていき、PR を行う。近隣の施設である永平寺などと親和性が高く、コンテンツとしても白山平泉寺や越前大仏などで「食」「ガイド」「E-Bike レンタル」などの付加価値を提供できるものを増やし、充実を目指す。
○ターゲット層 日本に訪れており、ここでしかない場所や体験をしたいと考えている金沢を訪れている外国人

〇選定の理由
　勝山市に訪れている外国人観光客は金沢を訪れているケースが多いため。
〇取組方針
　インバウンドの誘客においては、他地域、市町村や県と連携して取り組む必要があることと認識しており、連携を密にして旅行会社への共同 PR 等を行っている。
　自社でプロモーション要素として、SNS の情報発信を行なっている。また、外国人向けの情報発信として「MATCHA」を利用し、日々情報発信を行なっていた。
　SNS のプロモーションについては訴求が成功し、外国人上昇率全国 2 位となっている。

（４）観光地域づくりのコンセプト

①コンセプト	恐竜のロマンと歴史の静寂、そして大自然のアクティビティが融合する、唯一無二の癒しと冒険の地・勝山
②コンセプトの考え方	勝山市は福井県立恐竜博物館という全国でも類を見ない観光資源を持ち、さらに西日本最大級のスキー場であるスキージャム勝山や 1300 年の歴史を誇り苔宮として有名な平泉寺白山神社、日本で一番大きい坐像として有名な越前大仏など、県内でも有数の集客施設を保有している。 ・恐竜好きの夢が叶う「日本の恐竜のメッカ」 ・静かに心を癒す「歴史と文化のリラックス空間」 ・家族で楽しむ「関西圏の隠れ家的スノーリゾート」 として、これらの魅力を統合し、大人も子どもも楽しむことができる、歴史・自然・アクティビティが共存する地域として発信を行い、観光消費額の増加を図っていく。 地域 DMO として、観光客の属性やニーズを把握した上で、それぞれにあった地域資源の強さを引き出すコンテンツを造成し、市内企業が観光産業に参入できる土壌を、伴走型支援で情報やノウハウを提供していくとともに作っていく。

５．関係者が実施する観光関連事業と戦略との整合性に関する調整・仕組み作り、プロモーション

項目	概要
戦略の多様な関係者との共有 ※頻度が分かるよう記入すること。	取締役会、株主総会、各種事業での連絡調整会議
	取締役会は商工会議所を中心として、金融機関の代表者等で構成されており、3 ヶ月に 1 回程度設け、1 年に 1 回の株主総会にて方向性や情報の共有を行っている。 地域の観光施設等の事業者とは 1～2 ヶ月に 1 回程度、現地を訪問し、事業者との意見交換を行っている。意見交換の内容はイベント事業の共有や開催についてのヒアリング、SNS 周りの協力、団体営業等の商談会の情報共有など、それぞれの観光事業者に沿った内容で行ってい

	る。観光プロモーション等各事業でも連携を行っており、観光事業者側の事業実施や情報発信、インターネット等メディアの一部管理等も当社が中心となって実行している。 　また、年に３～４回、勝山戦略協議会を市内事業者と共に形成し、戦略、事業の共有等を行なっている。
観光客に提供するサービスについて、維持･向上・評価する仕組みや体制の構築	当社が中心となり、市内事業者を巻き込みながら、観光客に提供するサービスを提供している。維持・向上・評価においては来訪する観光客にヒアリングアンケートを実施し、改善点があった場合、当該担当部署（施設管理においては市役所等）に情報提供している。
観光客に対する地域一体となった戦略に基づく一元的な情報発信･プロモーション	観光サイトの運営やSNSの運営をしており、観光施設・飲食施設・宿泊施設等を網羅的に紹介している。 ・ウェブサイト（勝山観光ナビ） ・SNS（観光情報公式、恐竜ショップ、道の駅恐竜渓谷かつやま等） 観光の情報発信においては勝山市と協議の上、一元的にDMOが行っている。ウェブサイトだけではなく、各観光施設のSNS運営や各観光施設のGoogle My Business等も運営の一部を当社で行なっており、情報の齟齬がないように発信管理を行っている。 来訪後の情報案内としては、恐竜博物館を擁する長尾山総合公園内において、インフォメーションセンターを運営し、市内観光地等の案内を実施している。

※各取組について、出来る限り具体的に記入すること。

６．ＫＰＩ（実績・目標）

※戦略や個別の取組を定期的に確認・改善するため、少なくとも今後３年間における明確な数値目標を記入すること。
※既に指標となりうる数値目標を設定している場合には、最大で過去３年間の実績も記入すること。

（１）必須ＫＰＩ

指標項目		2022（Ｒ４）年度	2023（Ｒ５）年度	2024（Ｒ６）年度	2025（Ｒ７）年度	2026（Ｒ８）年度	2027（Ｒ９）年度
●旅行消費額（百万円）	目標	5,672	5,156	6,500	6,900	7,300	7,500
		(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(　)
	実績	6,799	6,984	9,952			
		(-)	(-)	(-)			
●延べ宿泊者数（人）	目標	80,386	84,405	99,000	100,000	101,000	102,000
		(-)	(-)	(2,000)	(2,500)	(3,000)	(3,500)
	実績	94,771	99,551	128,653			
		(-)	(2,598)	(1,418)			
●来訪者満足度（%）	目標	75	75	78	80	80	80
		(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(　)
	実績	81.0	76.8	78.5			
		(-)	(78.2)	(83.1)			

様式１

●リピーター率（%）	目標	36	36	40	42	45	46
		(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(　)
	実績	28.2	51.2	39.3			
		(-)	(-)	(-)			

※括弧内は、訪日外国人旅行者に関する数値

目標数値の設定にあたっての検討の経緯及び考え方

【検討の経緯】
旅行消費額、延べ宿泊者数は、勝山市役所で計測をしてきているが、今後は当社と連携して市内の宿泊施設・観光施設を含めてデータ収集・分析を行う方向で協議を行っている。
来訪者満足度・リピーター率は当社が実施しているアンケートの結果をもとに分析をしている。
新型コロナウィルスの影響もあるが、2022 年 12 月以降 4 ヶ月程度恐竜博物館が一時休館していたため、現状通りもしくは微増、収容人数 2027 年以降ホテル建設等で宿泊数が大幅に増加すると予測している。それに伴い、リピーター率は減少すると考えている。
旅行消費額においては、現在、福井県観光連盟が実施する FTAS の数値に基づき、再検討を行なっている。

【設定にあたっての考え方】
●旅行消費額
福井県観光客入込数から一人当たりの平均観光消費額（県内消費）をもとに積算している。
●延べ宿泊者数
勝山市のデータによって算出している。
●来訪者満足度
当社が実施しているアンケートデータから算出している。
県民以外のデータを抽出し、点数の平均値を出ししている。
●リピーター率
当社が実施しているアンケートデータから算出している。

（２）その他の目標

指標項目		2022（Ｒ４）年度	2023（Ｒ５）年度	2024（Ｒ６）年度	2025（Ｒ７）年度	2026（Ｒ８）年度	2027（Ｒ９）年度
●Web サイトのアクセス状況	目標	50,000	65,000	180,000	190,000	200,000	210,000
		(-)	(-)	(3,000)	(3,500)	(3,800)	(4,200)
	実績	119,626	172,110	151,453			
		(2,957)	(2,318)	(2,671)			
●メディア掲載回数（回）	目標	30	30	35	40	45	55
		(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
	実績	17	83	84			
		(-)	(-)	(9)			
●インフォメーションセンター観光案内数（件）	目標	8,000	8,000	6,000	5,300	5,000	4,800
		(-)	(-)	(-)	(200)	(250)	(300)
	実績	6,210	2,951	3470			
		(-)	(-)	(163)			

※括弧内は、訪日外国人旅行者に関する数値
※各指標項目の単位を記入すること。

指標項目及び目標数値の設定にあたっての検討の経緯及び考え方

【検討の経緯】
来訪前の情報発信指標として「観光ホームページＰＶ数」を、来訪後の情報発信指標として、「インフォメーションセンター観光案内数」「メディア掲載回数」を設定する。

【設定にあたっての考え方】
●観光ホームページＰＶ数
当社が運営する「福井観光ナビ勝山」のＰＶ数

●メディア掲載回数
自社の取り組み及び、携わっている市内観光施設のメディア（テレビ、新聞、SNS 等）掲載数を対象としている。

●インフォメーションセンター観光案内数
2018 年 4 月にジオターミナルがオープンし、勝山市からインフォメーションセンター運営業務を受託。恐竜博物館からの周遊促進を目的として観光案内を実施しており、恐竜博物館の位置する長尾山総合公園内に関する案内も含めて集計対象としている。

７．活動に係る運営費の額及び調達方法の見通し

※少なくとも今後３年間について、計画年度毎に（１）収入、（２）支出を記入すること。
※現に活動している法人にあっては、過去３年間の実績も記入すること。

（１）収入

年（年度）	総収入（円）	内訳（具体的に記入すること）
2022（Ｒ４） 年度	378,961,770（円）	【収益事業】 340,478,941 円 【公物管理受託】 インフォメーションセンター運営：10,798,182 円 道の駅指定管理：15,563,638 円 【補助委託事業】 12,121,009 円
2023（Ｒ５） 年度	457,491,217（円）	【収益事業】 431,172,413 円 【公物管理受託】 道の駅指定管理：15,563,638 円 【補助委託事業】 10,755,166 円
2024（Ｒ６） 年度	582,574,156（円）	【収益事業】 567,757,792 円 【公物管理受託】 道の駅指定管理：14,816,364 円

2025（Ｒ７） 年度	638,770,000（円）	【収益事業】 610,770,000 円 【業務委託事業】 23,000,000 円 【補助委託事業】 5,000,000 円
2026（Ｒ８） 年度	621,877,000（円）	【収益事業】 616,877,000 円 【補助委託事業】 5,000,000 円
2027（Ｒ９） 年度	628,046,477（円）	【収益事業】 623,046,477 円 【補助委託事業】 5,000,000 円

（２）支出

年（年度）	総支出	内訳（具体的に記入すること）
2022（Ｒ４） 年度	357,832,166（円）	【売上原価】 217,952,792 円 【人件費】 68,910,232 円 【一般管理費】 70,092,466 円 【支払い利息】 876,676 円
2023（Ｒ５） 年度	464,781,348（円）	【売上原価】 262,803,702 円 【人件費】 83,391,817 円 【一般管理費】 117,582,790 円 【支払い利息】 1,003,039 円
2024（Ｒ６） 年度	580,157,456（円）	【売上原価】 360,130,312 円 【人件費】 101,668,212 円 【一般管理費】 117,026,428 円 【支払い利息】 1,332,504 円
2025（Ｒ７） 年度	637,360,132（円）	【売上原価】 379,370,000 円 【人件費】 119,714,132 円 【一般管理費】 136,776,000 円

		【支払い利息】 1,500,000 円
2026（Ｒ８） 年度	607,360,100（円）	【売上原価】 348,370,000 円 【人件費】 120,714,100 円 【一般管理費】 136,776,000 円 【支払い利息】 1,500,000 円
2027（Ｒ９） 年度	618,276,000（円）	【売上原価】 359,000,000 円 【人件費】 121,000,000 円 【一般管理費】 136,776,000 円 【支払い利息】 1,500,000 円

（３）自律的･継続的な活動に向けた運営資金確保の取組･方針

2018 年のジオターミナルの運営開始により、自律的・継続的な活動に向けた運営資金の確保に目途が立ったことに加え、2020 年に指定管理者となった道の駅恐竜渓谷かつやまがオープンし、自主財源で運営資金を確保することができている。

2025 年度からは指定管理は受託するが、指定管理料金が０円となった。

当社は行政からの負担金がないため、事業の運営等を実施し、事業費等全ての運営費用と事業運営によって確保していく方針である。

収益事業の内容は以下の通り

【収益事業】

・ジオターミナル

2018 年より福井県立恐竜博物館前のジオターミナルを市役所と共同で建設し、2023 年 4 月より市役所管理部分の譲渡を受け、全て自社物件となった。施設内にてショップ及びレストランを自主運営している。売上及び客単価も向上しており、現在はオリジナル商品開発を行い、原価率の管理や収益性の向上を目指している。ショップは日本最大級の恐竜のお店としてブランドプロモーションを図り、現在も行っている県外での催事出店等をブランド価値向上とともに拡大していきたいと考えている。2022 年 12 月から 2023 年 7 月上旬まで恐竜博物館リニューアルオープンに伴い、休業をしていたが、2023 年 7 月中旬から再開している。

・道の駅恐竜渓谷かつやま

2020 年より指定管理者となり運営をしている。現在はショップでは PDCA を回しながら、商品構成や販売方法の改善を重ねている。現在、地元の商材を使用した商品開発を行なっており、地元商材を使用した商品開発をおこなっている。

・かつやま青果市場／カフェ

2025 年秋にオープン予定の施設を当社にて現在建設している。青果市場にて市内の農作物の集約及び、事業者への販売を行う。また、カフェでは市内の魅力向上に努めた商品の提案等を行う予定である。また、隣接する道の駅との一体的な事業を展開し、双方の売上向上を目指す。

８．観光地域づくり法人形成・確立に対する関係都道府県・市町村の意見

勝山市観光まちづくり(株)は、市民や団体、1～3 次産業者など多種多様な主体の参画による観光地域づくりを推進し、地域産業・経済の活性化による当市の持続的な発展を牽引する目的として、勝山市や勝山商工会議所、そして市内金融機関など関係者が出資して設立された法人である。

実施事業についても、定例的な協議や情報交換などを行い、勝山市と連携を図りながら行っている。当市としても勝山市観光まちづくり(株)とともに日本版ＤＭＯとしての取組を強く推進し、市内の観光の産業化を図って参りたい。

９．マネジメント・マーケティング対象区域が他の地域連携ＤＭＯ（県単位以外）や地域ＤＭＯと重複する場合の役割分担について（※重複しない場合は記載不要）

【他の地域連携ＤＭＯや地域ＤＭＯとの間で、重複区域に関する連携や役割分担等について協議を行った（行っている）か】

地域連携ＤＭＯである福井県観光連盟と定期的に意見交換や事業協力を行なっている。

【区域が重複する背景】

地域連携ＤＭＯとして県内全域を対象としているため。

【重複区域における、それぞれの DMO の役割分担について】

地域事業者やＤＭＯに向けての補助や観光連盟が行う事業の協力。地域事業者と事業の実施等は地域ＤＭＯで行なっている。

【前述の役割分担等によって、効率的、効果的な活動の遂行が期待できるか】

地域連携ＤＭＯは後方支援を主としているため、効率的な活動の遂行が期待できる。

様式１

１０．記入担当者連絡先

担当者氏名	今井　三偉
担当部署名（役職）	取締役　マネージャー
郵便番号	〒911-0804
所在地	福井県勝山市元町１丁目 18-19
電話番号（直通）	0779-87-1245
ＦＡＸ番号	0779-87-3110
Ｅ－ｍａｉｌ	imai@katsuyama-navi.jp

１１．関係する都道府県・市町村担当者連絡先

都道府県･市町村名	福井県勝山市
担当者氏名	秦　直樹
担当部署名（役職）	商工文化課　（係長）
郵便番号	〒911-8501
所在地	福井県勝山市元町一丁目１番１号
電話番号（直通）	0779-88-8117
ＦＡＸ番号	0779-88-1119
Ｅ－ｍａｉｌ	n-hata@city.katsuyama.lg.jp

（登録）【地域DMO】勝山市観光まちづくり株式会社（勝山DMO）

様式2

記入日：　令和　7年　7月14日

基礎情報

【マネジメント・マーケティング対象とする区域】
　福井県勝山市
【設立時期】　平成28年6月17日
【設立経緯】
④その他
【代表者】　宮塚　和彦
【マーケティング責任者（CMO）】　今井　三偉
【財務責任者（CFO）】　伊藤　寿康
【職員数】　36人（常勤22人（正職員20人・出向等2人）、非常勤14人）
【主な収入】
　収益事業　567百万円、委託事業　14百万円（R6年度決算）
【総支出】
　売上原価　360百万円、人件費　101百万円、一般管理費　117百万円（R6年度決算）
【連携する主な事業者】
　勝山市、勝山商工会議所、（合）ジオスタジオ、大福交通（有）、えちぜん鉄道（株）、東急リゾーツ＆ステイ（株）、地元金融機関や市内観光・商工事業者、隣接市町観光協会等

KPI（実績・目標）

※（　）内は外国人に関するもの。

項目		2022（R4）年度	2023（R5）年度	2024（R6）年度	2025（R7）年度	2026（R8）年度	2027（R9）年度
旅行消費額（百万円）	目標	5,672（–）	5,156（–）	6,500（–）	6,900（–）	7,300（–）	7,500（–）
	実績	6,799（–）	6,984（–）	9,952（–）	—	—	—
延べ宿泊者数（千人）	目標	80,386（–）	84,405（–）	99,000（2,000）	100,000（2,500）	101,000（3,000）	102,000（–）
	実績	94,771（–）	99,551（–）	128,653（1,418）	—	—	—
来訪者満足度（%）	目標	75（–）	75（–）	78（–）	80（–）	80（–）	80（–）
	実績	81.0（–）	76.8（–）	78.5（83.1）	—	—	—
リピーター率（%）	目標	36（–）	36（–）	40（–）	42（–）	45（–）	46（–）
	実績	28.2（–）	51.2（–）	39.3（–）	—	—	—

戦略

【主なターゲット】
第1ターゲット：大都市に居住する20~40代の子供がいるファミリー
第2ターゲット：寺社、仏閣などに興味がある個人旅行で訪れるアクティブ層
【ターゲットの誘客に向けた取組方針】
　恐竜博物館という非常に強いコンテンツを軸に誘客を実施。また、恐竜以外のコンテンツを 観光施設と共同にてプロダクト開発を実施する。また、SNSを中心としたPR戦略を実施する。インバウンドについては、滞在型ツアーを検討、開発し、地域住民と接点が増える事業を開発を目指す
【観光地域づくりのコンセプト】
恐竜のロマンと歴史の静寂、そして大自然のアクティビティが融合する、唯一無二の癒しと冒険の地・勝山

具体的な取組

【観光資源の磨き上げ】
・観光プロダクト開発・販売（インバウンド・国内）
・市内事業者と連携し、商品開発
・各種データ取得、活用

【受入環境整備】
・Google ビジネスプロフィール支援
・Trip Advisor開設支援
・パンフレット制作
・インバウンド向けセミナー開催（インバウンドラボ）

【情報発信・プロモーション】
・HP運営
・SNS情報発信
・インバウンド向け情報発信（HP開設）
・インフルエンサー招聘
・観光施設　広報運営支援

【その他】
・日本最大級の恐竜ショップ運営
・道の駅指定管理受託
・青果市場運営

等